

各教科の情報教育に係る指導内容(中学・高校版)

尚美学園大学
小泉力一

1. 中学校版について

(1) 前回からの変更点

- ・「指導要領」欄と「指導要領解説」欄を「各教科の情報教育に係る指導内容」として統合
いずれかに記載されていれば根拠として十分と判断。
指導内容(太字)の下に改行して詳細な内容を併記。
- ・「学習活動」と「基本的活動」を「情報教育に関連する学習活動(参考例)」として統合
後者は補足として記したもので不要と判断。
- ・一部の「指導内容」を整理統合
社会の調べ学習、数学のグラフ活用、理科のシミュレーション活用、その他。
本質的に同じ指導内容が科目ごとに記述されているための措置。

(2) 委員の意見への対応

- ・「高校への接続」欄(暫定版)を追加
指導内容に複数の要素があるためあくまでも参考資料(今後精査する必要あり)。
- ・プログラミング活動の表記
「学習活動例」に具体的なプログラミング活動の事例を追加(緑色表示部分)。

2. 高校版について

- ・基本的に今回の中学校版と同じフォーマット。
- ・「指導要領」記述および「指導要領解説」記述は同等に扱う。
- ・「中学校からの接続」欄(暫定版)を作成。
- ・「情報教育に関連する学習活動(参考例)」について。
高校版ではある程度具体的な内容を示した。ただし、あくまでも「私案」であり「参考例」である。今後作成予定の「教員向け指導資料」の中でわかりやすい事例を検討する。

3. 各教科の情報教育に係るキーワード

中学・高校を通して、教科ごとに次のようなキーワードが認められる。この結果を整理することで、各教科で担当すべき情報教育の内容をまとめられる可能性がある。

- ・国語
聞くこと・読むこと 情報収集、整理、分析(、メディアリテラシー)
話すこと・書くこと 情報表現、情報発信、情報伝達
- ・社会
地歴：調べ学習での活用、情報化の社会への影響
公民：調べ学習での活用、情報モラル、光と影
- ・数学
プログラミング、アルゴリズム、統計処理(シミュレーション)
- ・理科
探求活動及び課題研究における道具としてのコンピュータ・インターネットの利用
データ収集、実験結果分析、レポート作成
- ・芸術
美術：映像メディア表現(新設された項目で内容が具体的)
音楽：電子楽器
工芸：コンピュータを利用したデザイン
- ・家庭、技術・家庭
消費者教育(情報安全教育)
- ・保健体育
コンピュータの身体的影響
- ・英語
コミュニケーション

4. 中高および小中高の接続関係の分析

現行指導要領においては、中高の関連教科間での接続が必ずしも意識されていない。発達段階を考慮した指導内容の違いも含めて、簡単な接続図を作成することが望ましい。